

風土記の丘の花だより²²⁹

今、そしてこれから見られる植物(2024年3月30日)

3月26日、ソメイヨシノがやっと咲きました。昨年は3月17日に開花宣言をしましたので、10日ほど遅れたということになります。今年は雨が多すぎたからでしょうか。やようやく春を迎えた気分です。これから草花がどんどん咲いてきます。楽しみです。



春を告げる花の一つ、ヒトリシズカが開花しました。万葉植物園のミツマタなどが咲いていた段の西端です。まだ少ししか咲いていませんが、きっと増えてくることでしょう。これはセンリョウ科の植物で、もう少ししたら咲き始めるフタリシズカとともによく知られています。なんと言っても名前が素敵ですね。まだ葉はありませんが、そのうち艶のある葉も出てきます。この花には花びらも萼もありません。白くみえるのはおしべです。とても小さい花ですが、見つけたら嬉しくなりますね。



前号でアオキの雌花を紹介しましたが、不公平があっただけでないので(笑)、雄花も紹介します。雌花の真ん中にはポチっと見えるものは一つでしたが(青枠の写真)、雄花にはポチが4つあります。雌花のポチはめしべ、雄花のポチはおしべです。一目瞭然で、とてもわかりやすい違いですね。花の集まりを「花序」といいますが、雌花の花序はギュッと詰まっていますが、雄花のそれは、かなり間延びしています。花だけでなく、そんな違いも観察すると興味深いですね。



春と言えばスミレ。風土記の丘でも咲き始めてくれました。写真はタチツボスミレです。よく道ばたで見かけるスミレよりも色が淡く、花びらもなんとなくヒラヒラしているように見えます。このスミレが群生するとポカポカ春の陽気となります。これから、葉に斑が入るフモトスミレや白い花のアリアケスミレ、赤紫色のシハイスミレなど、種類も花数もどんどん増えてきます。いろいろなスミレの花を愛でながら、山歩きがますます楽しくなる季節ですね。トイレの入り口の右側に、こんな鮮やかな色の花が咲いています。園芸植物のムスカリです。何の仲間かわかりにくいですが、大きく分ければユリの仲間、今ではキジカクシ科という仲間分類されています。英語ではグレープヒヤシンス、確かにブドウみたいにも見えますね。



この号で令和4年度は終わりです。230号からは新年度になりますが、これからも何も変わることなく書き続けますのでご愛読のほどよろしくお願いいたします。 松下